

豪中銀は利下げ、NZ中銀は据え置きへ＝豪中銀及びNZ中銀金融政策会合

2025年7月7日(月)

8日にオーストラリア準備銀行(中央銀行)金融政策会合、9日にニュージーランド準備銀行(中央銀行)金融政策会合の結果が発表されます。豪中銀は今年3回目の利下げが濃厚。前回5月に続いて連続利下げとなります。昨年8月の利下げ開始以降前回5月まで6会合連続で利下げを実施してきたNZ中銀は昨年7月以来の据え置きに回る見込みとなっています。

まずは8日13時半の豪中銀会合。

豪中銀は政策金利であるオフィシャルキャッシュレート(OCR)をコロナ過で0.1%まで引き下げた後、世界的なインフレの進行もあり、2023年11月に4.35%まで金利を引き上げました。その後米、欧州、NZなどが2024年夏ごろから利下げに回る中で4.35%を維持してきましたが今年2月に0.25%の利下げを実施。4月の据え置きを経て、前回5月19日、20日の会合で今年2回目の利下げを実施し、現在3.85%となっています。

前回の利下げ自体は想定通りでしたが、6月3日に公表された会合の議事要旨でややサプライズがありました。議事要旨では5月の会合で0.25%利下げに加え、0.50%の利下げを議論していたことが示されました。トランプ関税を受けた世界的な貿易混乱のリスクを受けて景気を支える姿勢を強化する中銀の姿勢が示された形です。声明の中で(米関税政策が)豪州経済に顕著な悪影響を及ぼしている兆しは見られないと示し、労働市場は依然として逼迫、インフレは目標の中央値に安定的に戻っていないと示している段階での0.5%利下げ検討だけに、中銀のハト派姿勢が印象付けられました。

前回会合後の豪指標をみると、6月4日発表の豪第1四半期GDPは市場予想及び前回昨年第4四半期を下回る前期比+0.2%となりました。6月19日発表の5月豪雇用統計は雇用者数が予想外のマイナス0.25万人。25日発表の5月月次消費者物価指数(CPI)は市場予想及び4月の+2.4%を下回る+2.1%と、いずれも厳しい数字が並んでいます。

こうした状況を受けて短期金利市場では今回の0.25%利下げを約95%織り込んでいます。金利先物市場では少し割合が落ちますが、それでも約90%が利下げを織り込み、エコノミストなど専門家による予想では約87%が利下げを織り込んでいます。

なお、少数派といえ据え置き見通しが残っていることには注意が必要です。大方の予想通り0.25%の利下げとなりOCRが3.60%となった場合 注目は声明などでの今後の姿勢です。短期金利市場では65%程度が8月の追加利下げを織り込んでいます。8月に見送った場合でも9月までには利下げを実施するという見方がほぼ100%、年内では今回を含め3回の利下げが見込まれている状況です。

声明などの姿勢でこうした見通しに変化が生じるようだと要注意。前回の中銀の姿勢から、慎重姿勢が強く示されて、利下げ期待が強まる可能性があり、その場合は豪ドル売りとなります。

続いて前回5月28日の会合で6会合連続の利下げを実施したNZです。NZ中銀もコロナ過で0.25%まで政策金利であるオフィシャルキャッシュレート(OCR)を引き下げた後、世界的なインフレを受けて2023年5月に5.50%までOCRを引き上げました。その後昨年8月の会合で利下げを開始すると、2回の大幅利下げを含む6会合連続での利下げを実施し、現状は3.25%となっています。

前回5月の利下げでは、6名の委員の票が割れ、5名が利下げ、1名が据え置きに投票しました。すでにピークから2.25%の利下げを実施していることもあって、利下げに慎重な動きが出てきていました。

四半期に一度示される中銀によるフォワードガイダンスでは、今年年末の政策金利を2.92%としており、1回の追加利下げを見込む動きとなりました。前回2月のフォワードガイダンスでは3.14%となっており、現状水準での維持と1回利下げの見通しが拮抗していました。

年内の追加利下げ期待があるとはいえ、今回ではないとの見通しが広がっており、短期金利市場では87%が据え置きを見込んでいます。注目は声明などで今後の追加利下げにどこまで言及するかとなりそうです。